

科目名 (英)	職業人教育 ( Professionals Education)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	前期 月曜・4限
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	挨拶、ことば遣い、手紙の書き方、職場での振る舞い等現場ですぐに必要なマナーやスキルについて、実践的に学ぶ。							
到達目標	社会人としての基本的なマナーを身につけ、対人援助職にふさわしい人間性を養う。							
評価方法と基準	定期テスト70% 出席 30%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/5	講義	コミュニケーションとは 他者と	配布プリントにて学ぶ
2	4/12	講義	コミュニケーションとは 自己と思考	配布プリントにて学ぶ
3	4/19	講義	最近のモンスターペアレンツと対応	配布プリントにて学ぶ
4	4/26	講義	こころの処方箋①強さよりもしなやかさ	配布プリントにて学ぶ
5	5/10	講義	こころの処方箋②強さよりもしなやかさ	配布プリントにて学ぶ
6	5/17	講義	実習に向けての確認、発送	配布プリントにて学ぶ
7	5/24	講義	実習日誌の確認	配布プリントにて学ぶ
8	5/31	講義	絵本の選択 お礼状の書き方	配布プリントにて学ぶ
9	6/7	講義	実習先へのお礼状送付、確認	配布プリントにて学ぶ
10	7/12	講義	パーソナリティの心理	配布プリントにて学ぶ
11	7/26	講義	人格検査法	配布プリントにて学ぶ
12	8/23	講義	交流分析とエゴグラム	配布プリントにて学ぶ
13	8/30	講義	無意識のはたらき	配布プリントにて学ぶ
14	9/6	講義	まとめ	配布プリントにて学ぶ
15	9/13	講義	自己評価	配布プリントにて学ぶ
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
Hand-book of Life Style 他				

科目名 (英)	職業人教育 (Professionals Education)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	後期 木曜・2限
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	自己について認識することにより、今何が必要で何をしなければいけないか自己認知する。							
到達目標	自分の長所短所をこれまで以上に理解しその為のコントロール抑制方法について知る。							
評価方法と基準	レポート 70% 出席 30%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
16	10/21	講義	自我同一性	配布プリントにて学ぶ
17	10/28	講義	自分をいかす	配布プリントにて学ぶ
18	10/28	講義	対人関係の心理	配布プリントにて学ぶ
19	11/29	講義	対人態度を知る	配布プリントにて学ぶ
20	12/2	講義	人へのとまどい	配布プリントにて学ぶ
21	12/2	講義	実習への日誌その他確認	配布プリントにて学ぶ
22	12/9	講義	実習の反省及びお礼状作成	配布プリントにて学ぶ
23	12/9	講義	人との関わり方	配布プリントにて学ぶ
24	12/16	講義	感情と感情表出	配布プリントにて学ぶ
25	1/13	講義	心と体の健康	配布プリントにて学ぶ
26	1/20	講義	就職活動について(キャリアセンター)	配布プリントにて学ぶ
27	1/27	講義	3年生からの話(就職内定者)	配布プリントにて学ぶ
28	1/31	講義	就活に必要なこと	配布プリントにて学ぶ
29	2/3	講義	就活に必要なこと	配布プリントにて学ぶ
30	2/10	講義	就活に必要なこと	配布プリントにて学ぶ
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
Hand-book of Life Style 他				

科目名 (英)	保育原理	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫 裕一
	( Childcare Principle )	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 月曜・3限
学科・コース	こども保育科						
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師						
授業の学習内容	様々な西洋、及び日本における保育思想と児童観の変遷を通し、日本における幼稚園、保育所等の成立とそれに関する人物及び変遷について学ぶ。 また、保育に関する概略的な知識について学ぶ。						
到達目標	①自分の子ども観、保育観についての概観を知る。 ②保育に関する概略的な知識を知る。						
評価方法及び基準	定期試験(60%)レポート課題(30%)平常点(10%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/5	講義	乳幼児の特質と保育の意義を理解する	学習課題2枚(アマラとカマラまとめ)
2	4/12	講義	〃	1枚(まとめ)
3	4/19	講義	乳幼児の発達の特徴を考える	2枚(性善説・性悪説) 連休中の課題
4	4/26	講義	保育思想と児童観(西洋編)を知る	1枚(あなたの中の別の人の声)
5	5/10	講義	保育思想と児童観(日本編)を知る	1枚(七五三はなぜやるの)
6	5/17	講義	近代保育の創設・発展(日本)を知る	1枚(保育用語を調べてみよう)
7	5/24	講義	まとめ及び夏休みの課題の発表	
8	5/31	講義	我が国における幼稚園の成立と変遷	
9	6/7	講義	我が国における保育所の成立と変遷	
10	7/12	講義	保育の目的	1枚(遊びについて)
11	7/26	講義	保育の計画・評価遊びなどを知る	1枚(先生としての信用とは)
12	8/23	講義	保育の目的・方法	1枚(先生としての覚悟)
13	8/30	講義	保育の計画・評価	授業の内容を理解する
14	9/6	講義	子育て支援・保育の多様化	
15	9/13	講義	保育の今日的課題とまとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
保育原理				

科目名 (英)	子ども家庭支援論 (Family Support Theory)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鑑さやか
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30(2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	平成13年より現在まで県内外の大学、短期大学にて社会福祉科目を指導する。						
授業の学習内容	現在、核家族化の進行、地域の養育力の減少、女性の社会進出などの種々の社会的環境の変化により、子育て家庭を取り巻く状況は様々な問題や課題を抱えている。授業では、そうした子育て支援施策の現況を念頭に置きつつ、保育所や地域でどのような家庭支援・子育て支援が必要なのかについて、子育て家庭のニーズや社会的課題を踏まえて考える。						
到達目標	①子育て家庭を取り巻く現状を把握し、家庭の意義と機能について理解する ②子育て家庭の支援体制について理解する ③子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と保育所や地域との連携について理解する						
評価方法と基準	定期試験(70%) ミニレポート(20%) 出席・授業への参加態度(10%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1	9月30日	講義	オリエンテーション	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
2	10月7日	講義	家庭支援の対象と役割～家庭の機能～	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
3	10月14日	講義	支援を必要とする家庭を取り巻く社会的状況	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
4	10月21日	講義	地域の子育て家庭と子育て支援の実際	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
5	10月28日	講義	家庭支援に関わる法・制度	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
6	11月25日	講義	子育て家庭の支援体制(1)	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
7	12月2日	講義	子育て家庭の支援体制(2)	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
8	12月9日	講義	保育者が行う家庭支援の原理(1)	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
9	1月13日	講義	保育者が行う家庭支援の原理(2)	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
10	1月20日	講義	保育を必要とする家庭とその支援	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
11	1月27日	講義	障害児とともにある家庭とその支援	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
12	1月28日	講義	子どもの貧困とその家庭への支援	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
13	1月31日	講義	養育困難家庭への支援	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
14	1月31日	講義	地域の子育て家庭への支援	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
15	1月31日	講義	家庭支援サービスの課題	教科書の該当箇所を読み、専門用語の意味を理解しておく	
準備学習 時間外学習			復習は、配布資料の穴埋め箇所を中心に行うこと		
【使用教科書・教材・参考書】□ 橋本 真紀(編集), 山縣 文治(編集) よくわかる家庭支援論 ミネルヴァ書房					

科目名 (英)	幼児への特別な支援 ( Disabled Children Childcare )		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期 木曜
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	知的障害の特徴と保育での支援等については先にスクーリングで学習及び実際に見学に行ってきたが、今回は、その他の障害の特徴と保育での支援について学び、障害児保育に関する支援を学ぶ。							
到達目標	障害の種類について全体をつかみ、それぞれの障害に対して、どのような支援の方法が考えられるか、具体例を示しながら学習することを目標とする。							
評価方法と基準	レポート、科目終末試験:100% 出席必須							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/26	講義	人間行動理解の観点、視覚障害児	教科書の内容を予習・復習する
2	9/2	講義	聴覚障害児、肢体不自由児	教科書の内容を予習・復習する
3	9/30	講義	言語障害児、体制作り	教科書の内容を予習・復習する
4	9/30	講義	支援の方法、家族への支援	教科書の内容を予習・復習する
5	10/7	講義	障害児のアセスメント①	教科書の内容を予習・復習する
6	10/7	講義	障害児のアセスメント②	教科書の内容を予習・復習する
7	10/14	講義	発達支援の技法①	教科書の内容を予習・復習する
8	10/14	講義	発達支援の技法②	教科書の内容を予習・復習する
準備学習 時間外学習			近大レポート課題+科目終末試験	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
よくわかる障害児保育 第2版、レポート設題集、科目終末試験問題集				

科目名 (英)	子どもの食と栄養 ( Food and Nutrition of Child )	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	千石 祐子
学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分	前期金曜日・2 限
教員の略歴	管理栄養士 宮城県仙台市保健福祉センター嘱託						
授業の学習内容	小児期の健やかな成長と生涯にわたる健康の第1歩となる食、栄養に関する基本的な知識と子どもの発育発達という特徴を踏まえて学習する。また子どもの食生活は発達のみならず心身の健康にも影響が大きいため栄養学的特性を学び、適した食物の摂取や食育指導方法を習得する必要がある。また家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学び特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解を深める。						
到達目標	①健康な生活を基本として食生活の意義を学び基本的知識を学ぶ。 ②子どもの発育発達に合わせた食生活とその意義実践について理解する。 ③食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解する。 ④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ⑤特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。						
評価方法と基準	試験 70% レポート 20% 授業態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/9	講義	オリエンテーション 成人期とは違う子どもの栄養と食生活の特性を学ぶ	
2	4/16	講義	子どもの食生活の現状と課題について理解する	配布したプリントの内容を復習する
3	4/23	講義	栄養の基礎知識 ① 消化のしくみと栄養の取り組みについて理解する。糖質・脂質・たん	P20～P29を読んでくる
4	5/7	講義	栄養の基礎知識 ② 消化のしくみと栄養の取り組みについて理解する ミネラル・水分	P20～P29を読んでくる
5	5/14	講義と演習	発育、発達のために何をどれ位食べれば良いかを学ぶ	2日分の食事記録を書いてく
6	5/21	講義	子どもの身体発育や発達について理解する	P40～47まで読んでおく
7	5/28	講義	子どもの食べる機能について理解する	P47～P52を読んでおく
8	6/4	講義	妊娠の経過と妊婦の食生活について理解する	妊娠中の食事について考える
9	6/18	講義	妊娠期のトラブルに対応するための食事について理解する	P65～P72を読んでおく
10	7/16	講義	母乳栄養の特徴を知り保育者としての関わりを考える	配布したプリントの内容を復習する
11	7/23	講義	人工栄養の特徴を理解し調乳方法を学ぶ。	人工栄養の種類を調べる
12	7/30	講義	離乳食の必要性と役割を学ぶ	授業時に配布した内容を復習する
13	8/27	講義	幼児期の心身の発達と食生活の関わりを学習する	幼児のお弁当を考える
14	9/3	講義	試験	
15	9/10	講義と演習	まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
子どもの食と栄養 二見 大介 高橋 陽 編者				

科目名 (英)	子どもの保健 (Children's Health )	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	粉川 妙子
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30(2)	開講区分 前期 月曜 2限 曜日・時限
教員の略歴	助産師、保健師、看護師、養護教諭 宮城教育大学大学院学校教育専攻修士課程修了 東北大学大学院歯学研究科歯科学専攻博士課程修了						
授業の学習内容	少子化・核家族化の現代社会の中で、子どもを健やかに育てるために小児保健の基礎的な知識を学び、子どもの身体生理・運動・精神的機能の基本的な成長・発達について学ぶ。その中で、小児の健康状態の観察、乳幼児の養護、小児の疾病とその予防対策、事故と安全対策などの健康障害に関する知識の習得とその対策についても学ぶ。						
到達目標	1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2.子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3.子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4.子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。						
評価方法及び基準	期末試験70%、課題提出20%、受講態度10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月5日	講義	オリエンテーション 子どもの心身の健康と保健の意義・子どもの定義と発育区分	配付資料の通読
2	4月12日	講義	健康の概念と健康指標	配付資料の通読
3	4月19日	講義	子どもの健康状態の観察 (チェックポイント)	配付資料の通読
4	5月10日	講義	子どもの虐待防止	配付資料の通読
5	5月10日	講義	「赤ちゃんの不思議な道のり」DVD視聴	配付資料の通読
6	5月17日	講義	子どもの成長と発達:子どもの身体発育	配付資料の通読
7	5月17日	講義	子どもの成長と発達:運動機能と生理機能①	配付資料の通読
8	5月24日	講義	子どもの成長と発達:運動機能と生理機能②	配付資料の通読
9	5月24日	講義	子どもの成長と発達:運動機能と生理機能③	配付資料の通読
10	5月31日	講義	子どもの精神保健	配付資料の通読
11	5月31日	講義	子どもの疾病の予防と適切な対応:主な疾病②	配付資料の通読
12	6月7日	講義	子どもの疾病の予防と適切な対応:主な疾病①	配付資料の通読
13	6月7日	講義	保育現場における事故防止・SIDS	配付資料の通読
14	7月26日	講義	定期試験	配付資料の通読
15	7月26日	講義	「子どもの保健」振り返り・まとめ	配付資料の通読
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	保育の心理学 ( Developmental Psychology )	必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	2	担当教員	飯島典子
学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分	前期 月曜5限
教員の略歴	東北大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻博士課程 短期大学/専門学校講師10年以上						
授業の学習内容	保育者として子どもの現在の状態を理解し、発達を援助するために必要な知識を修得する。具体的には、運動発達、認知発達、社会性の発達など、各領域の発達メカニズムとその過程と複数の領域が関連し合いながら発達する機能間連関による発達について学ぶ。さらに、それらの知識を保育場面で活用する際の発達の観点にたった援助のあり方について学ぶ。						
到達目標	①発達を規定する要因を捉え、発達の理解と保育との関連について説明できる。 ②運動、認知、社会性などの領域ごとの発達メカニズムとその過程を説明できる。 ③発達の機能間連関について説明できる。 ④発達のエージェントとしての保育者の役割について考え、自分なりの意見を述べるができる。 ⑤発達に関する知識を踏まえた保育を創造することができる。						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)授業内課題20% 3)グループワークへの参加度20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月5日	講義	子どもの発達を理解することの意義	テキストを熟読すること
2	4月12日	講義	子どもの発達と保育	これまでの復習とテキストの熟読
3	4月19日	講義	身体・運動発達	これまでの復習とテキストの熟読
4	4月26日	講義	乳時期・幼児期前期の認知発達	これまでの復習とテキストの熟読
5	5月10日	講義	幼児期後期・児童期の認知発達	これまでの復習とテキストの熟読
6	5月17日	講義	言語の発達	これまでの復習とテキストの熟読
7	5月24日	講義	感情の発達	これまでの復習とテキストの熟読
8	5月31日	講義	社会性の発達	これまでの復習とテキストの熟読
9	6月7日	講義	仲間関係の発達	遊び経験とそこにある発達がなにかをまとめる
10	7月19日	講義	子どもの学びと発達	園での生活を調べ幼児の学びについてまとめる
11	7月26日	講義	生活と遊びを通した学び	これまでの復習とテキストの熟読
12	8月23日	講義	特別な支援を必要とする子どもの特別支援	ルール遊びを考案する
13	8月30日	講義	特別な支援を必要とする子どもへの支援	これまでの復習とテキストの熟読
14	9月6日	講義	子どもの発達と現代的課題	これまでの復習とテキストの熟読
15	9月13日	講義	発達の観点をもった保育の創造	これまでの復習とテキストの熟読
準備学習 時間外学習			30時間	
【使用教科書・教材・参考書】 □ シードブック 保育の心理学 (本郷一夫・飯島典子) 建帛社 ISBN 978-4-7679-5091-4				



科目名 (英)	子ども家庭福祉 (Children and Family Welfare)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鑑さやか
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 火曜1限
教員の略歴	平成13年より現在まで県内外の大学、短期大学にて社会福祉科目を指導する。							
授業の学習内容	現代社会における子ども家庭福祉を取り巻く様々な問題について学び、意義や制度を理解する。また、現代のニーズを把握し、どのように対応していくべきか理解を深めていく。							
到達目標	現代社会における子ども家庭福祉の意義や制度を学び、家族のニーズにどう対応しているか理解できる。							
評価方法と基準	レポート、科目終末試験 100%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/5	講義	第一章 現代社会と子ども家庭福祉	教科書を熟読する
2	4/6	講義	第一章 現代社会と子ども家庭福祉	教科書を熟読する
3	4/7	講義	第二章 子ども家庭福祉の歴史	教科書を熟読する
4	4/8	講義	第二章 子ども家庭福祉の歴史	教科書を熟読する
5	4/9	講義	第三章 子ども家庭福祉の理念と法律	教科書を熟読する
6	4/10	講義	第四章 子ども家庭福祉の期間と専門職	教科書を熟読する
7	4/11	講義	第四章 子ども家庭福祉の期間と専門職	教科書を熟読する
8	4/12	講義	第五章 児童福祉施設	教科書を熟読する
9	4/13	講義	第五章 児童福祉施設	教科書を熟読する
10	4/14	講義	第六章 子ども家庭福祉サービス	教科書を熟読する
11	4/15	講義	第六章 子ども家庭福祉サービス	教科書を熟読する
12	4/16	講義	第七章 保育サービス	教科書を熟読する
13	4/17	講義	第七章 保育サービス	教科書を熟読する
14	4/18	講義	第八章 少子化対策と子育て支援	教科書を熟読する
15	6/8	講義	科目終末試験	教科書を熟読する
準備学習 時間外学習			近大レポート課題+科目終末試験	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
児童家庭福祉 大津泰子著 ミネルヴァ書房				

科目名 (英)	子ども家庭支援の心理学 ( Psychology of Child Family Support)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 木曜・2限
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	人間のライフサイクルにおけるそれぞれの発達の特徴や課題を明らかにするとともに、その中での家族、家庭の意義と機能の変化について理解する。							
到達目標	家族、家庭における機能の変化と問題点について理解し、そのための支援の方法について考えられるようにする。							
評価方法と基準	レポート、科目終末試験 100% 出席必須							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/8	講義	第一講 乳児期の発達	科目終末試験に向けて内容理解に努める
2	4/15	講義	第二講 幼児期の発達	科目終末試験に向けて内容理解に努める
3	4/22	講義	第三講 学童期の発達	科目終末試験に向けて内容理解に努める
4	5/6	講義	第四講 青年期の発達	科目終末試験に向けて内容理解に努める
5	5/13	講義	第五講 第六講 成人、老年期	科目終末試験に向けて内容理解に努める
6	5/20	講義	第七講 家族・家庭の意義と機能	科目終末試験に向けて内容理解に努める
7	5/27	講義	第八講 家族関係・親子関係の理解	科目終末試験に向けて内容理解に努める
8	6/3	講義	第九講 子育ての経験と親としての育ち	科目終末試験に向けて内容理解に努める
9	6/10	講義	第十講 子育てを取り巻く社会的状況	科目終末試験に向けて内容理解に努める
10	6/17	講義	第十一講 ライフコースと仕事・子育て	科目終末試験に向けて内容理解に努める
11	7/15	講義	第十二講 多様な家庭とその理解	科目終末試験に向けて内容理解に努める
12	7/22	講義	第十三講 特別な配慮を要する家庭	科目終末試験に向けて内容理解に努める
13	7/29	講義	第十四講 子どもの生活・生育環境	科目終末試験に向けて内容理解に努める
14	8/26	講義	第十五講 子どものこころの健康	科目終末試験に向けて内容理解に努める
15	9/2	講義	テスト、まとめ	科目終末試験に向けて内容理解に努める
準備学習 時間外学習			近大レポート課題・科目終末試験	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
新・基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学、レポート設題集、科目終末試験問題集				

科目名 (英)	教育相談 ( Educational Counseling )		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 木曜1限
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	カウンセリング理論について知り、その理論をもとに様々なカウンセリング技法の方法について知る。また子ども及び保護者とのかかわりの中で具体的な方法を知る。							
到達目標	カウンセリング理論及び技法を知ることにより、子どもや保護者とのかかわりの中で具体的な方法を知る。							
評価方法と基準	レポート、科目終末試験:100% 出席必須							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/8	講義	第一章 より良い子育て支援のために	科目終末試験に向けて内容理解に努める
2	4/15	講義	第二章 カウンセリング理論①	科目終末試験に向けて内容理解に努める
3	4/22	講義	第二章 カウンセリング理論②精神分析	科目終末試験に向けて内容理解に努める
4	5/6	講義	第二章 カウンセリング理論③アドラー	科目終末試験に向けて内容理解に努める
5	5/13	講義	第二章 カウンセリング理論④ユング、交流	科目終末試験に向けて内容理解に努める
6	5/20	講義	第二章 カウンセリング理論⑤行動論理、ブリーフ 第三章①	科目終末試験に向けて内容理解に努める
7	5/27	講義	第三章②カウンセリング技法	科目終末試験に向けて内容理解に努める
8	6/3	講義	第四章 日常の保護者との関わり方①	科目終末試験に向けて内容理解に努める
9	6/10	講義	第四章 日常の保護者との関わり方②	科目終末試験に向けて内容理解に努める
10	6/17	講義	第五章 養育困難を抱える保護者支援①	科目終末試験に向けて内容理解に努める
11	7/15	講義	第五章 養育困難を抱える保護者支援②	科目終末試験に向けて内容理解に努める
12	7/22	講義	第六章 障害のある子どもの保護者支援 第七章①	科目終末試験に向けて内容理解に努める
13	7/29	講義	第七章 精神疾患の疑いのある保護者の理解②	科目終末試験に向けて内容理解に努める
14	8/26	演習	総合的な観点で調べる	科目終末試験に向けて内容理解に努める
15	9/2	講義	テスト、まとめ	科目終末試験に向けて内容理解に努める
準備学習 時間外学習			近大レポート課題・科目終末試験	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
子育てカウンセリング～幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート～、レポート設題集、科目終末試験問題集				

科目名 (英)	ピアノ実技 ( Piano prectical skill )		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫範子
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	前期 水曜1限
教員の略歴	(公)音楽の力による復興センター東北歌カフェピアノ担当							
授業の学習内容	子ども向けの歌の簡易伴奏法や、保育実践において必要な技術を習得する。							
到達目標	習熟した音楽技術を用いて音楽性を高める努力をしつつ、保育現場において子ども達の音楽活動を適切に導くために必要な知識や技術を習得する。							
評価方法と基準	授業の受講姿勢(20%) 課題の到達度(40%) 実技試験(40%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/7	演習	オリエンテーション (授業の進め方の説明)	歌う、弾くの反復練習
2	4/21	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
3	4/28	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
4	5/12	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
5	5/19	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
6	5/26	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
7	6/2	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
8	6/9	演習	保育所実習課題曲の準備	歌う、弾くの反復練習
9	6/16	演習	保育所実習課題曲の準備	歌う、弾くの反復練習
10	7/14	演習	保育所実習課題曲の準備	歌う、弾くの反復練習
11	7/21	演習	実習のまとめ	歌う、弾くの反復練習
12	7/28	演習	実技試験の準備	歌う、弾くの反復練習
13	8/25	演習	実技試験の準備	歌う、弾くの反復練習
14	9/1	演習	実技試験の準備	歌う、弾くの反復練習
15	9/22	演習	試験	歌う、弾くの反復練習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 こどものうた100、子どものための音楽表現技術など				

科目名 (英)	ピアノ実技 ( Piano prectical skill )		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫範子
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	後期 水曜1限
教員の略歴	(公)音楽の力による復興センター東北歌カフェピアノ担当							
授業の学習内容	子ども向けの歌の簡易伴奏法や、保育実践において必要な技術を習得する。							
到達目標	習熟した音楽技術を用いて音楽性を高める努力をしつつ、保育現場において子ども達の音楽活動を適切に導くために必要な知識や技術を習得する。							
評価方法と基準	授業の受講姿勢(20%) 課題の到達度(40%) 実技試験(40%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
16	9/29	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
17	10/6	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
18	10/13	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
19	10/13	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
20	10/20	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
21	10/20	演習	幼稚園実習課題曲のための準備	歌う、弾くの反復練習
22	10/27	演習	幼稚園実習課題曲のための準備	歌う、弾くの反復練習
23	11/24	演習	幼稚園実習課題曲のための準備	歌う、弾くの反復練習
24	12/15	演習	実習のまとめ	歌う、弾くの反復練習
25	12/22	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
26	1/26	演習	指定曲のピアノ演奏、季節・生活・こどもの歌の弾き歌い	歌う、弾くの反復練習
27	2/2	演習	実技試験の準備	歌う、弾くの反復練習
28	2/3	演習	実技試験の準備	歌う、弾くの反復練習
29	2/9	演習	実技試験の準備	歌う、弾くの反復練習
30	2/10	演習	試験・まとめ	歌う、弾くの反復練習
準備学習		時間外学習		
【使用教科書・教材・参考書】 こどものうた100、子どものための音楽表現技術など				

科目名 (英)	教材研究・製作 (Materials Research and Production)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	横田 重俊
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分	前期 水曜・3.4 限
教員の略歴	子どもが喜ぶ 絵本と木のおもちゃや「横田や」店长(40年)							
授業の学習 内容	子どもは体験を通して自ら育っていく。 その子どもたちに、人間として生きていく「知恵」を伝える物に「昔話」や「わらべうた」「伝承あそび」があった。 今、保育の場でその役割を担っているものを「児童文化財」という。 それらが何故子どもたちに必要なのかとの講義と製作・実習を行う。							
到達目標	①制作をした児童文化財を子どもたちの前で演じられるようになる。 ②紙芝居の演じ方・絵本の読み方をマスターする。							
評価方法と基準	制作物(80%)実技(10%)平常点(10%) 基準は子どもの前で実際に使えるかどうか。							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)			
1	5/12	講義	児童文化・児童文化財概論について学ぶ	学んだことを理解する				
2	5/12	講義	児童文化・児童文化財研究について学ぶ	学んだことを理解する				
3	5/19	講義	絵本について理解する	学んだことを理解する				
4	5/19	講義	絵本について理解する	学んだことを理解する				
5	5/26	講義	紙芝居について理解する	学んだことを理解する				
6	5/26	講義	紙芝居と絵本の違いについて理解する	学んだことを理解する				
7	6/2	ワーク	図書館を見学する	学んだことを理解する				
8	6/2	講義	絵本の与え方を理解する	学んだことを理解する				
9	6/9	実習	絵本の読み聞かせを実演する	学んだことを理解する				
10	6/9	実習	紙芝居を実演する	学んだことを理解する				
11	6/16	講義	パネルシアターについて理解する	学んだことを理解する				
12	6/16	実習	パネルシアターを制作する	学んだことを理解する				
13	7/14	実習	パネルシアターを制作する	学んだことを理解する				
14	7/14	実習	パネルシアターを制作する	学んだことを理解する				
15	7/21	実習	パネルシアターを制作し実演する	学んだことを理解する				
準備学習		時間外学習						
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>								

科目名 (英)	教材研究・製作 (Materials Research and Production)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	横田 重俊
	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 ( 2 )	開講区分	前期 水曜・3.4 限	曜日・時限	
学科・コース	こども保育科							
教員の略歴	子どもが喜ぶ 絵本と木のおもちゃや「横田や」店長(40年)							
授業の学習内容	<p>子どもは体験を通して自ら育っていく。 その子どもたちに、人間として生きていく「知恵」を伝える物に「昔話」や「わらべうた」「伝承あそび」があった。 今、保育の場でその役割を担っているものを「児童文化財」という。 それらが何故子どもたちに必要なのかとの講義と製作・実習を行う。</p>							
到達目標	<p>①制作をした児童文化財を子どもたちの前で演じられるようになる。 ②紙芝居の演じ方・絵本の読み方をマスターする。</p>							
評価方法と基準	<p>制作物(80%)実技(10%)平常点(10%) 基準は子どもの前で実際に使えるかどうか。</p>							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)			
1	7/21	ワーク	おはなし会について理解する	学んだことを理解する				
2	7/28	ワーク	おはなし会の実演を見る	学んだことを理解する				
3	7/28	実習	スプーン人形を制作する	学んだことを理解する				
4	8/25	実習	スプーン人形を制作する	学んだことを理解する				
5	8/25	実習	手袋人形を制作する	学んだことを理解する				
6	9/1	実習	手袋人形を制作する	学んだことを理解する				
7	9/1	実習	手袋人形を制作する	学んだことを理解する				
8	9/8	講義	おはなしの小道具について	学んだことを理解する				
9	9/8	実習	おはなしの小道具を制作する	学んだことを理解する				
10	9/8	実習	おはなしの小道具を制作する	学んだことを理解する				
11	9/8	実習	おはなしの小道具を制作する	学んだことを理解する				
12	9/22	実習	おはなし会の準備及び練習	学んだことを理解する				
13	9/22	実習	おはなし会を実演する	学んだことを理解する				
14	9/29	実習	おはなし会を実演する	学んだことを理解する				
15	9/29	実習	おはなし会を実演する	学んだことを理解する				
準備学習		時間外学習						
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>								

科目名 (英)	ふれあい実習 ( Friendship Training )		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	増永那津美
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年 (前期 水曜・2限)
教員の略歴	仙台市公立保育士、認定こども園保育教諭を経て仙台医健・スポーツ専門学校専任教員							
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育・教育実習に向け、必要な準備をする。</li> <li>・制作したものを実践する機会を設け、知識・経験を深めて自信に繋がるようにする。</li> </ul>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育・教育実習に向けた必要な準備物が分かり、計画的に準備できる。</li> <li>・保育・教育実習に必要な意欲・態度が分かり、実践しようとする。</li> </ul>							
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト・・・30%</li> <li>・授業態度・意欲・・・40%</li> <li>・出席・・・30%</li> </ul>							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)			
1	4/7	講義	オリエンテーション・エプロンシアター制作	教材制作				
2	4/9	演習	エプロンシアターを制作することができる	教材制作				
3	4/16	演習	エプロンシアターを制作することができる	教材制作				
4	5/12	演習	エプロンシアターを制作することができる	教材制作				
5	5/19	講義	指導案の書き方を理解することができる					
6	5/26	演習	エプロンシアターの部分実習指導案を作成することができる	指導案制作※オリエンテーションTEL				
7	6/2	演習	エプロンシアターの部分実習を実践・反省できる	指導案制作				
8	6/9	講義	0～2歳児の発達段階を理解することができる					
9	6/16	講義	3～5歳児の発達段階を理解することができる					
10	6/23	オンライン授業	実習日誌の書き方を理解することができる	子ども達の発達段階について理解しておく				
11	6/23	オンライン授業	日誌の用語の使い分けができるようになる	子ども達の発達段階について理解しておく				
12	7/14	演習	保育所実習を終えて個別面談をし、振り返りができる					
13	7/21	演習	保育実習の報告スライドを作成できる	スライド作成				
14	7/28	演習	保育実習の報告スライドを作成できる	スライド作成				
15	8/25	演習	自己紹介教材を制作することができる	教材制作				
準備学習				時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □								
幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド								



科目名 (英)	ふれあい実習 ( Friendship Training )		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	増永那津美
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年 (後期 水曜・2限)
教員の略歴	仙台市公立保育士、認定こども園保育教諭を経て仙台医健・スポーツ専門学校専任教員							
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育・教育実習に向け、必要な準備をする。</li> <li>・制作したものを実践する機会を設け、知識・経験を深めて自信に繋がるようにする。</li> </ul>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育・教育実習に向けた必要な準備物が分かり、計画的に準備できる。</li> <li>・保育・教育実習に必要な意欲・態度が分かり、実践しようとする。</li> </ul>							
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト・・・30%</li> <li>・授業態度・意欲・・・40%</li> <li>・出席・・・30%</li> </ul>							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
16	9/1	演習	自己紹介教材を制作することができる	教材制作
17	9/8	演習	自己紹介教材を制作することができる	教材制作
18	9/8	演習	自己紹介部分実習の指導案を作成できる	指導案制作
19	9/22	演習	自己紹介部分実習の指導案を作成できる	指導案制作
20	9/29	演習	自己紹介の部分実習を実践・反省することができる	実践準備
21	10/6	講義	教育実習日誌の書き方を理解することができる	子ども達の発達段階について理解しておく ※オリエンテーションTEL
22	10/27	講義	教育実習日誌の書き方を理解することができる	子ども達の発達段階について理解しておく
23	11/24	演習	幼稚園実習を終えて個別面談をし、振り返りができる	
24	12/2	演習	幼稚園実習の報告スライドを作成できる	スライド作成
25	12/9	演習	幼稚園実習の報告スライドを作成できる	スライド作成
26	12/15	講義	冬の教材制作ができる(切り絵・ガーランド)	
27	12/22	演習	冬の教材制作ができる(切り絵・ガーランド)	
28	1/26	演習	実習報告会に向けて準備・練習ができる	実践準備
29	2/2	演習	園行事について知ることができる	豆まき会の演習・準備
30	2/9	演習	振り返り・まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド				

科目名 (英)	実習プレ  (Pracyice Pre-)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	奥山栄子
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60時間 (4単位)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	幼稚園教諭として勤務、副園長経験。専門学校、短期大学にて実習指導を担当。						
授業の学習内容	①保育・教育実習に臨むにあたり必要な準備(保育に関する知識・技術・実践等)を整える。 ②保育実習・教育実習と密接に関連しながら、保育・教育について総合的に理解する。 ③保育現場において実習生に必要とされる知識や技術を習得し、実習で実践できる力を身に付ける。 以上を踏まえ、本授業においては、保育実習Ⅰ(保育所)および教育実習Ⅰに向け、実習に向けての心構えや態度、実習日誌や保育指導案の書き方、保育技術(作成・演習等)、実習後の振り返り等について、保育現場レベルでの指導を行う。						
到達目標	①保育実習Ⅰおよび教育実習Ⅰの目標を達成するために必要な事前準備を整え、保育者の役割と専門性について具体的に理解する。 ②保育現場で求められる保育技術を習得する。 ③実習経験を振り返り、今後の実習に向けて自己の課題を持つ。						
評価方法及び基準	①各授業への取り組み・態度・振り返り等 40% ②課題(実習日誌・保育指導案・教材・まとめ等)の作成・提出・内容等 40% ③演習発表(実践・振り返り等) 20% 上記の各項目が50%以上、かつ総合して60点以上を単位認定とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月9日	講義	保育所実習の意義と目的を理解できる	教科書やプリントから実習のイメージをまとめること
2	4月16日	講義・演習	部分実習を理解する(設定保育と保育指導案)	教科書やプリントから授業内容を復習すること
3	5月14日	演習	保育演習技術を習得することができる	手遊び・絵本・紙芝居等の練習をすること
4	5月15日	講義・演習	乳児の発達と保育内容を理解できる(0~2歳)	教科書やプリントから授業内容を復習すること
5	5月15日	講義・演習	実習日誌の書き方を理解できる(保育所)	実習日誌の書き方を復習すること
6	5月15日	講義・演習	実習日誌の書き方を理解できる(発達段階との関係)	乳幼児の発達と関連させながら日誌を書けるようにすること
7	5月21日	演習	教材研究(保育教材の制作①)	教材制作に必要な材料を準備すること
8	5月28日	演習	教材研究(保育教材の制作②)	教材を完成させ、演じ方を練習すること
9	6月18日	講義・演習	実習前の準備を整えることができる	実習に向けての準備をする
10	7月16日	講義・演習	保育所実習Ⅰを振り返る①	保育所実習Ⅰの学びをまとめること
11	7月30日	講義・演習	保育所実習Ⅰを振り返る②	保育所実習Ⅰの学びを完成させること
12	8月27日	講義・演習	教育実習の意義と目的を理解できる	教科書やプリントから実習のイメージをまとめること
13	9月3日	講義	3歳以上児の発達と保育内容を理解できる	教科書やプリントから授業内容を復習すること
14	9月10日	講義・演習	実習日誌の書き方を理解できる(幼稚園Ⅰ)	実習日誌の書き方の基本を復習すること
15	9月10日	講義・演習	実習日誌の書き方を理解できる(発達段階との関係)	発達段階と関連させながら日誌を書けるようにすること
16	9月10日	講義・演習	部分実習の指導案を立案することができる	指導案を完成させ、模擬保育の練習をすること
17	9月17日	講義・演習	部分実習の指導案を立案することができる	指導案を完成させ、模擬保育の練習をすること
18	10月8日	演習	保育指導案を実践し理解することができる(部分実習)	模擬保育演習の準備・練習・振り返りをするこ
19	10月15日	演習	保育指導案を実践し理解することができる(部分実習)	模擬保育演習の準備・練習・振り返りをするこ
20	10月22日	講義・演習	実習前の準備を整えることができる	教育実習Ⅰに向けての準備をする
21	11月26日	演習	教育実習Ⅰを振り返る(エピソードから)	教育実習Ⅰのエピソードをまとめておくこと
22	12月3日	演習	教育実習Ⅰを振り返る(部分実習から)	教育実習Ⅰの部分実習での経験をまとめておくこと
23	12月3日	講義・演習	教育実習Ⅰを振り返る①	教育実習Ⅰの学びをまとめること
24	12月10日	講義・演習	教育実習Ⅰを振り返る②	教育実習Ⅰの学びを完成させること
25	12月10日	講義・演習	自己の課題を明確化することができる	保育所実習Ⅰ・教育実習Ⅰの反省をまとめておくこと
26	12月17日	演習	教材研究(パネルシアターの制作①)	教材制作に必要な材料を準備すること
27	1月14日	演習	教材研究(パネルシアターの制作②)	教材の制作を進めること
28	1月21日	演習	教材研究(パネルシアターの制作③)	教材を完成させ、演じ方を練習すること
29	1月28日	演習	パネルシアターの実演をする	プリントなどから演じ方などについて復習する
30	2月4日	演習	実習経験を仲間と共有する	3年次の実習に向けて自己の課題を見出すこと
準備学習 時間外学習			指示された課題のみならず、関連する科目・内容を振り返り、自主的に実習準備を進めること	
【使用教科書・教材・参考書】 小櫃智子編著『幼稚園・保育所・認定こども園 パーフェクトガイド』わかば社、2017年 『幼稚園教育要領(文部科学省)・保育所保育指針(厚生労働省)・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(総務省)』フレーベル社、2018年				

科目名 (英)	音楽表現技術 (Music Representation Skill)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫範子
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期・集中 曜日・時限
教員の略歴	(公)音楽の力による復興センター東北歌カフェピアノ担当							
授業の学習内容	保育現場で活かすことのできる音楽技術の習得							
到達目標	保育者として子どもに歌い聴かせるための声楽の基礎を学ぶとともに、基本歴な音楽理論を理解する。 弾き歌いに必要な、鍵盤楽器の基礎を身につける。							
評価方法と基準	授業の受講姿勢(20%) 課題の到達度(40%) 実技試験(40%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	12/1	演習	歌う、聴く、弾くの活動の確認	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
2	12/1	演習	記録表 ピアノ①の確認	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
3	12/1	演習	記録表 声楽の設題1・2・3	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
4	12/1	演習	記録表 ピアノ②の確認	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
5	12/1	演習	記録表 ピアノ②の確認	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
6	12/8	演習	記録表 声楽 設題4	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
7	12/8	演習	記録表 声楽 設題5	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
8	12/8	演習	記録表 声楽 設題6	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
9	12/8	演習	試験課題発表	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
10	12/8	演習	実技試験	内容を理解し、音楽表現の向上と表現方法を検討する
準備学習 時間外学習			記録表 ピアノ①②が終了していること	
【使用教科書・教材・参考書】 音楽 ピアノ教本 声楽教本				

科目名 (英)	幼児と造形表現 (Arts and Crafts)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	相馬 亮
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15(1)	開講区分 前期・集中 曜日・時限
教員の略歴	大学院にて美術を専攻。卒業後は図画工作、美術の教員として19年間各地の小・中・高・大学にて指導している。						
授業の学習内容	様々な素材や表現方法を学び、幼児の造形表現に必要な援助ができる保育者をを目指す。						
到達目標	子どもの絵画や造形における発達を知り、子どもが造形活動を楽しみ、進んで表現したり見たりする態度を身に付けるために、適切な援助が出来るようになる。図画工作が益々好きになり、美術作品の鑑賞も自分なりに楽しめるようになる。						
評価方法と基準	作品の完成度 70% 授業態度 30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	7月24日	演習	折り紙を作成する	学習内容を理解する
2	7月24日	演習	壁面制作をする	学習内容を理解する
3	7月24日	演習	壁面制作をする	学習内容を理解する
4	7月24日	演習	バルーンアートを作成する	学習内容を理解する
5	7月24日	演習	バルーンアートを作成する	学習内容を理解する
6	7月31日	演習	ごむ鉄砲、的を作成する	学習内容を理解する
7	7月31日	演習	ぶんぶんごまを作成する	学習内容を理解する
8	7月31日	演習	巨大バルーンを作成する	学習内容を理解する
9	7月31日	演習	巨大バルーンを作成する	学習内容を理解する
10	7月31日	演習	巨大バルーンを膨らませ、完成させる	学習内容を理解する
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
制作物に応じて材料を配布。				

科目名 (英)	幼児と健康 (Infant and the environment)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	佐藤 一樹
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15(1)	開講区分	後期・集中 曜日・時限
教員の略歴	上級障がい者スポーツ指導員、障がい者フライングディスク第1種審判員							
授業の学習内容	幼児期に必要な運動遊びのレポートリーを習得し、指導に必要な保育技術を学ぶ。							
到達目標	運動あそびの支援方法を活用できるように実践力を身に身に付ける 子ども意欲を引き出す環境構成について理解を深める 運動時に起こりうるリスクについての対応力を身に付ける							
評価方法と基準	レポート80% 授業内課題20%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	1月15日	演習	体育の意義、役割を理解し、内容および方法を理解する。	学習内容を理解する
2	1月15日	演習	おにごっこが発達段階に応じた運動あそびの展開方法について理解を深める	学習内容を理解する
3	1月15日	演習	ドッチボールの発達段階に応じた運動あそびの展開方法について理解を深める	学習内容を理解する
4	1月15日	演習	環境設定とはどのようなものか話し合い、理解を深める	学習内容を理解する
5	1月15日	演習	様々な運動あそびを行う上でどのようなリスクマネジメントが必要か考察をする	学習内容を理解する
6	1月22日	演習	移動遊具を使った運動あそびを行う際の補助の方法について理解を深める	学習内容を理解する
7	1月22日	演習	グループ毎に指導案を作成する	学習内容を理解する
8	1月22日	演習	グループ毎に作成した指導案の実践発表をする	学習内容を理解する
9	1月22日	演習	グループ毎に作成した指導案の実践発表をする	学習内容を理解する
10	1月22日	演習	運動あそびの実践についてグループで振り返る	学習内容を理解する
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
適宜資料を配布。				

科目名 (英)	子育て支援 (Childcare Consultation Support)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	飯島 典子
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15(1)	開講区分	後期・集中 曜日・時限
教員の略歴	東北大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻博士課程 短期大学/専門学校講師10年以上							
授業の学習内容	保育士による保育相談支援のあり方について学ぶ。保育士による保育相談支援の意義を十分理解し、保護者との信頼関係の重要性や受容的かわり、子どもの成長の喜びの共有、秘密保持等、支援の基本を学ぶ。保護者とともに毎日子どもを見守る保育士だからこそ可能な支援を考える。さらに、相談内容や支援計画の立案や記録、評価等保育相談支援の実際を学ぶ。							
到達目標	保育士による保育相談支援の意義と原則について理解する。 保護者支援の実際を理解する。							
評価方法と基準	レポート80% 授業内課題20%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	1月17日	講義	相談支援とは何か理解する	学んだことを理解する
2	1月17日	講義	カウンセリングとカウンセリングマインドについて理解する	学んだことを理解する
3	1月17日	講義	開発的カウンセリングについて理解する	学んだことを理解する
4	1月17日	講義	保育相談支援と心理療法について理解する	学んだことを理解する
5	1月17日	講義	パーソナリティについて理解する	学んだことを理解する
6	1月24日	講義	発達と保育相談について理解する	学んだことを理解する
7	1月24日	講義	発達障害と保育相談について理解する	学んだことを理解する
8	1月24日	講義	心の問題の種類と保育相談について理解する	学んだことを理解する
9	1月24日	講義	保護者に対する支援について理解する	学んだことを理解する
10	1月24日	講義	関連機関との連携について理解する	学んだことを理解する
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
保育の心理学				

科目名 (英)	社会的養護Ⅱ (Childcare Consultation Support)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鑑 さやか
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15(1)	開講区分	前期・集中 曜日・時限
教員の略歴	平成13年より現在まで県内外の大学、短期大学にて社会福祉科目を指導する。							
授業の学習内容	社会的養護に関わる相談援助の方法・技法について理解し、その実践について理解できる。							
到達目標	社会的養護に関わる相談援助の方法・技法について理解し、その実践について理解できる。							
評価方法と基準	グループワークへの参加(30%)、ふり返りシート(30%)、レポート(40%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9月14日	講義	社会的養護の実践と保育士について学ぶ	学んだことを理解する
2	9月14日	講義	社会的養護を必要とする子どもの理解と権利について学ぶ	学んだことを理解する
3	9月14日	講義	施設養護のプロセスについて理解する	学んだことを理解する
4	9月14日	講義	記録および評価について理解する	学んだことを理解する
5	9月14日	講義	施設への入所前後の支援を考える	学んだことを理解する
6	9月15日	講義	個別支援計画を作成する	学んだことを理解する
7	9月15日	講義	日常生活支援を考える	学んだことを理解する
8	9月15日	講義	治療的支援を考える	学んだことを理解する
9	9月15日	講義	施設養護の自立支援について理解する	学んだことを理解する
10	9月15日	講義	家庭養護へ向けての支援を理解する	学んだことを理解する
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
新・基本保育シリーズ5 子ども家庭支援論				

科目名 (英)	障害児保育 (Disabled Children Childcare)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15(1)	開講区分	前期・集中 曜日・時限
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	子どもの心身・脳の発達、知的・身体的障害について理解を深め、保育的援助について学ぶ。							
到達目標	子どもの心身・脳の発達、知的・身体的障害について理解を深め、特別な支援について理解する。							
評価方法と基準	出席、授業態度、ならびに筆記試験結果を総合して評価する							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9月24日	講義	知的障害・肢体不自由について理解する	学んだことを理解する
2	9月24日	講義	聴覚障害・視覚障害について理解する	学んだことを理解する
3	9月24日	講義	重度重複障害について理解する	学んだことを理解する
4	9月24日	講義	発達障害について理解する	学んだことを理解する
5	9月24日	講義	障害児の発達検査について理解する	学んだことを理解する
6	9月27日	講義	保護者の障害受容と展望について理解する	学んだことを理解する
7	9月27日	講義	関係機関との連携について理解する	学んだことを理解する
8	9月27日	講義	幼児期体験と障害児の育ちについて理解する	学んだことを理解する
9	9月27日	講義	幼児期体験と障害児の育ちについて理解する	学んだことを理解する
10	9月27日	講義	幼児期体験と障害児の育ちについて理解する	学んだことを理解する
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ よくわかる障害児保育 第2版				



科目名 (英)	子どもの食と栄養 (Food and Nutrition of Children)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	千石 祐子
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15(1)	開講区分	前期・集中 曜日・時限
教員の略歴	管理栄養士 宮城県仙台市保健福祉センター嘱託							
授業の学習内容	小児期の健やかな成長と生涯にわたる健康の第1歩となる食、栄養に関する基本的な知識と子どもの発育発達という特徴を踏まえて学習する。また子どもの食生活は発達のみならず心身の健康にも影響が大きいため栄養学的特性を学び、適した食物の摂取や食育指導方法を習得する必要がある。また家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学び特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解を深める。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康な生活を基本として食生活の意義を学び基本的知識を学ぶ。</li> <li>②子どもの発育発達に合わせた食生活とその意義実戦について理解する。</li> <li>③食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解する。</li> <li>④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。</li> <li>⑤特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</li> </ul>							
評価方法と基準	実習態度(20%) 実習レポート(20%) 前期試験 (60%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9月11日	講義	育児用ミルクの種類と特徴について理解する	学んだことを理解する
2	9月11日	講義	調乳実習にて乳児の食事を作る	学んだことを理解する
3	9月11日	講義	離乳食の意義と栄養について理解する	学んだことを理解する
4	9月11日	講義	離乳食実習を通して初期から完了期までの食事を理解する	学んだことを理解する
5	9月11日	講義	離乳食実習を通してだしの取り方を学ぶ	学んだことを理解する
6	9月12日	講義	幼児期の栄養について理解する	学んだことを理解する
7	9月12日	講義	幼児食実習を通してバランスの良いお弁当について理解する	学んだことを理解する
8	9月12日	講義	幼児食実習を通してバランスの良いお弁当を考案する	学んだことを理解する
9	9月12日	講義	小児期の食生活について理解する	学んだことを理解する
10	9月12日	講義	間食について理解する	学んだことを理解する
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	教育実習事前事後指導 (Teaching Practice Pre-Post Guidance)		必修 選択	必修	年次	2	担当教員	富樫 裕一
	学科・コース	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期・集 中
教員の略歴	宮城教育大学大学院修士課程修了、昭和52年～平成7年幼稚園教諭として勤務、その後専門学校専任教員を務め、大学・専門学校非常勤講師							
授業の学習内容	幼稚園実習に向けた心構えや準備に関する基礎知識を理解し、実習の目的や意義を確認する。							
到達目標	ロールプレイを通して、みんなの前で自己紹介ができるようになる。 幼稚園と保育所の1日の流れがわかる。 実習の目的や意義について確認する。							
評価方法と基準	実技(60%)レポート(30%)授業態度(10%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10/1	講義	幼稚園実習の目的意義を知る	学習内容を理解する
2	10/1	講義	自己紹介のロールプレイを行う	学習内容を理解する
3	10/1	講義	幼稚園の1日の流れを知る	学習内容を理解する
4	10/1	講義	実習の目的や意義を知る	学習内容を理解する
5	10/1	講義	実習日誌の記録について理解する	学習内容を理解する
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
国語辞典、教育実習日誌				

科目名 (英)	保育実習事前事後指導Ⅰ(保育所)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	前田 有秀
	(Childcare Training Pre-Post Guidance I Nursery)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15コマ (1単位)	開講区分	前期・集中
学科・コース	こども保育科						
教員の略歴	①認可保育園保育士(19年) ②尚綱学院大学子ども学類専任教員(保育実習指導歴7年)						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰ(保育所)をより良い経験とするため、実習の意義や基本姿勢、実習で求められる実習日誌や指導案の基本的な書き方、設定保育における保育の進め方等を実践的に展開し、実習準備を進めていく。</li> <li>・実習後は保育実習Ⅰでの経験をより深めるため、事後課題をまとめる。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の意義や目的を理解し、望ましい態度や心構えを身に付ける。</li> <li>・保育実習に必要な知識や技術等を習得する。</li> <li>・実習の総括と自己評価から、今後の実習に向けての課題を明確にする。</li> </ul>						
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の授業への取り組み・態度・振り返り等 40%</li> <li>・課題(実習日誌・保育指導案等)の作成・提出・内容等 40%</li> <li>・実習事後レポート 20%</li> </ul> 上記の各項目を総合して60点以上を単位認定とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5月29日	講義・演習	保育所実習Ⅰの意義・目的・目標が理解できる	テキストの該当する箇所を予習すること
2	5月29日	講義・演習	実習日誌の目的と書き方が理解できる	テキストの該当する箇所を予習すること
3	5月29日	講義・演習	設定保育(部分実習)が理解できる	部分実習の内容を考えておくこと
4	5月29日	講義・演習	保育指導案を理解し立案することができる	テキストの該当する箇所を予習すること
5	5月29日	講義・演習	実習事前準備と事後課題について理解できる	実習前の注意事項を確認しておくこと
準備学習 時間外学習			指示された課題のみならず、関連する科目・内容を振り返り、自主的に実習準備を進めること	
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b> □ <ul style="list-style-type: none"> <li>・小櫃智子編著『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社, 2017年</li> <li>・片山紀子編著『新版 保育実習・教育実習の設定保育』朱鷺書房, 2013年</li> <li>・『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省・厚生労働省・総務省, フレーベル社, 2018年</li> </ul>				